

No. 1

1978 年

昭和53年

同窓会より

— 発行 —

旭川荘厚生専門学院 同窓会

岡山市紙園地先

TEL 75-0145

— 編集責任者 —

同窓会々長 守屋 礼子

創刊号によせて

会長 守屋 礼子



爽りの秋を迎えた今日この頃、同窓生の皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じます。

さて、私たち同窓会も発足三年目を迎え、同窓会だよりを発行するまでになりました。これも全国に散らばっている皆様方の協力があればこそと感謝いたしております。さて、高塚会長の後任として大役をひきうけ二年目を迎えました。が、会長とは名ばかりで、思うような活動も出来ず心苦しいばかりです。皆様方にはご不信、ご不満の点多いと思います。しかし一年一回の総会、役員会、学院祭への参加等々、集まりにくいなか協力を得て、なんとかここまで来ることが出来ました。我が学院も年々拡張、充実とすばらしい後輩が後継に続いて、頼もしく思っています。

同窓会だよりの発行を機会に、やつとレールの上を走ることが出来るようになった同窓会を、もつともつと立派な、馬力のあるものにしたと願っています。

これからの同窓会の課題として、同窓会館の建設、講演会、研修旅行等、計画希望を持って、一歩一歩前進していきたいと思っておりますので、より一層のご協力、助言

同窓会だよりの

発行をよろこぶ

学院長 江草 安彦

昨年第二回同窓会総会に出席させていただき、皆さんのお元気なお姿に接することが出来たいへんうれしく思いました。たしかそのときに「たより」のことが話し合われたように覚えています。今般皆さんのご努力により、第一回の「同窓会だより」を発行する運びとなったことを、およろこび申し上げます。

をお願いしたいと思っております。

また、来る十一月四、五日の学院祭、五日の同窓会総会には、是非一人でも多くの人が参加して下さい。さるようお願い申し上げます。

終りに、我が学院の発展をお祈り致します。

同窓会案内

日時 十一月五日(日)

十一時~十二時

場所 母校二階視聴覚教室

学院祭案内

日時 十一月四日(土)

十一時~十六時

十一月五日(日)

十一時~十八時三十分

場所 母校

統一テーマ

ふれあい

内容

第一日 シンポジウム・映画・展示他

第二日 ステージ発表・パズル・フレイヤーストーム・展示他



上げるとともに、ご多忙をきわめながらよく同窓会の充実発展のため、力を尽くしておられることに敬意を表します。

去る三月、六期生をお送りしまして、これで五百余名の卒業生を数えるに至りました。

全国各地にあつて、第一線でご活躍されている皆さんに励まされ



て、学院の前途に限りない希望をいだいております。

ないないづくめの発足当初に比べて、いまの学院は格段の充実をみましたが、今後の一層の拡充・発展がのぞまれますし、皆さんが母校として自他に誇れる学校にしていかなければなりません。

そんな折から、皆さんは同窓会を組織され、お互いの交流を密にするとともに、母校とのつながりを、いよいよ確かなものにしようとしていっているのではありません。

「たより」は、皆さんにとって心の広場であり、学院にとって、今後の方向を規定する一つの指標となるでしょう。

心から「たより」にご期待申し上げますとともに、同窓生各位のご多幸をお祈りします。

学院の動向

副院長 長安一郎

昭和四十六年四月、社会福祉専門職員の養成を目的として創設されてから既に七年目を迎えることとなりました。

その間、六回にわたって集立った卒業生五百五十名は全国各地でそれぞれ元気に頑張っておられることは誠に嬉しいことです。

卒業生の数は

看護科	保育科	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	小計	合計
43	28	55	24	68	25	79	16	88	23
69	32	402	148	550					

また本年度から看護科に新しく高校卒業で三年課程が厚生省から認可され、これを第一看護科(定員五十名)といいます。そして従来の二年課程の看護科を第二看護科(定員五十名)と改称することになりました。

現在の学生数は

第一看護科	第二看護科	保育科	1年	2年	小計	合計
61	43	40	103	37	164	284

次に職員については、保育科は主任の久松先生と心理学の鶴野先生、教育学の豊山先生が中軸となっておられ、本年度から、児童院から森上先生が来られました。ピアノの新田先生は週一日の講師となられ、杉本先生が代りに専任教

員となりました。それから教育学と書道の石原先生と文章論の岡崎先生は、とてもお元気です。

看護科については、新設の第一看護科の主任として守屋先生が中心で、昨年春に新任された金居先生が加わられました。

従来の第二看護科では藤原先生が引続いて主任で、山田先生は教務課長を兼ねて専任教員として景山先生と共に担任をもちあわけております。

また留田先生は昨年来、家庭の事情で退職され、本年春から療育園から勝谷先生をお迎えしました。最後に私は昨年四月から参りまして、江草学院長先生のご指導のもとで職員一同と共に頑張っております。

それから、学院では環境整備に力を入れております。写真のように、前庭の造園や南面空地にテニスコートを新設しました。

五百五十名の同窓生の皆様、今



後とも学院を心の故郷としてお訪ね下さい。毎年十一月第一日曜日は学院祭の日で、この日に同窓会総会を開催するよう決定しておるようです。おさそい合せられて多数ご参集くださいますようお願いしております。

私の近況

保育科第一期生

野上芳江 (旧・木尾)

学院を去ってから、はや六年目を迎えてしまいました。毎年開かれる学院祭にも一度も行く事が出来ず、同窓会を開いたのも一度だけと、なかなか思う様に動きのとなれなくなりました。

保育科一期生も、ほとんどの人が結婚し、子どももいて、保母として、あるいは母親として、みんな一杯あらゆる所で頑張っている様です。

私もその一人で、現在、主人と子ども一人、主人の両親と五人家族です。もちろん共働きで、あゆみ保育園に勤務して六年目となりました。無認可から認可保育園となり、何とか人並みの生活が出来る様になりました。

今、ふりかえって思う事は、あの二年間の学院での生活が現在の私を支えていると言える事です。この六年間、何度挫折した事でしょう。保母という職業に何の生きがいも感じなくなった時期がありました。そんな時、あの頃の自分を思い出したのです。自分が辛

せになりたいと思ったら、人もやつぱり辛くないと自分の辛さはありえない。

ただひたすらそう思いつづけ、自分に正直であつたあの頃、何もこわいものもなかったあの頃の事を、二年間の学院生活の何が、私をそうまで思いこませたのでしょうか。辛い今でも少しづつ、あの頃の自分をとりもどし、やはり私にはこの仕事しかないと思える様になりました。

全く以前の私と同じわけにはいきませんが、子供がいという事は、少なからず犠牲をしいられるという事です。だから結婚して仕事をやめてしまったという人の気持ちもわかる様な気がします。長い一生の間には、やむなく子どもや夫の犠牲にならざるを得ない事があるものですね。

こういう事が理解出来るくらい年をとってしまった自分に寂しさも感じますが……

いくら年をとっても、妻である前に、母である前に、女性である前に、保母である前に、一人の人間として豊かでありたいと、たび重なる挫折でつかんだ、かすかな願いです。

看護に思う

看護科第一期生

堀内絹江 (旧・今田)

一期生の皆さんお元気ですか。卒業して五年を経過しましたが、各分野で御活躍のことと存じます。また家事、育児にと大変な時期でもあるでしょう。この場で私だけの言葉を載せる

のはおこがましいのですが、これからは皆さんの意見が次々と出てくることを望んでおります。

この五年でやっと自分の進む道がどうにか見えはじめたかなと思える私です。これからまだまだ長い看護の道が続くのですが、看護について再認識のつもりで私の考えている一端を記してみたいと思います。

現在、乳児院で業務にたずさわっています。どちらかと言えば見守られやすい予防医学に伴って予防看護なるものが軽視されやすい現状ではないでしょうか。そのような中で、病児の看護も重要ですが、元気な体をつくるにはどうしたら良いかという研究も看護に大切な責務の一つではないかと思われま

このようなことから、乳児院での看護の役割は、私にとって生涯をかけてでも追究し、それを少しでも実践にもつてゆけたらという願ひにあります。乳児院のみならず、社会全体の子どもの健康を守るには、と同時に考えるものです。それには、小児の心理、教育、社会的立場といった面を多く勉強してゆかねばと意気込んでいます。実行したいですね。

私にお金と時間があれば、学校というものにずっと通い、大勢の人達と話をし、多くの先生の講義を聞き、いつまでも若人でありたいものだと思っています。

それはど学生生活っていうのは楽しいものですね。みなさんとこれからも情報交換し合いましう。

楽しいものですね。みなさんとこれからも情報交換し合いましう。

近況報告

看護科二期生

桶谷和子
岡田久子

母校旭川厚生専門学院を卒業して五年、今私の胸に去来するのは、日本三名園の一つと云われる後楽園、旭川のほとりに残る岡山城跡、多島海美を欲しいままにする児島半島の鷺羽山と金甲山、大山隠岐国立公園の森山高原、私が学院時代にこれら岡山の自然をどれだけ愛した事でしょう。限りなく純粋に青春の夢に忠実であらうとしたあの頃の姿が、はにかみをまじえて思い出されるのです。

学院時代は私達にとって最も貴重な充実した毎日でした。多くの入連との出会い、中でも先生方の御人格に触れ、多くの友人の心にも触れました。若い日の夢を自分のものにしようとする友人の真剣な姿を見、そんな中で、いつしか目標を持つことの大切さを知り、自分をより豊かで緻密な人間に高めた心より願うようになっていきました。

時には漠然として見える看護学をしっかりと自分自身のものとする為、納得出来るまで議論をたかかわせ、時の経つのも忘れた事など、それらは今も尚新鮮に大きな意義を持って、現在の私達を支える力となっております。

私達は、今、東大阪市にある市立中央病院に勤めております。緑の少ない都市の真ん中ですが、生駒山や二上の山々の上に、岡山への

郷愁にはことかかないのです。院内では手術棟、外科棟棟に別れて忙しい毎日をおくる中で、正しい知識や確かな技術でも解決されない問題にぶつかり、ふと虚しさを感じる時、人間の生命の尊厳に對する畏敬の気持ち、謙虚な気持ちを思い、言葉一つにも心からのものでありたいと願い、それぞれの胸に秘かに理想像を描き、私達は話し合い、確かめ合うのです。

私の近況

保育科三期生

奥田昌代

郷愁にはことかかないのです。院内では手術棟、外科棟棟に別れて忙しい毎日をおくる中で、正しい知識や確かな技術でも解決されない問題にぶつかり、ふと虚しさを感じる時、人間の生命の尊厳に對する畏敬の気持ち、謙虚な気持ちを思い、言葉一つにも心からのものでありたいと願い、それぞれの胸に秘かに理想像を描き、私達は話し合い、確かめ合うのです。

今後、医学の進歩の目覚ましい中で、毎年果立って来られる方々と共に、互いを高め合いながら、ますます看護学の向上を目指して進みたいと思っております。

施設に勤めたいと決めた現在に在るまでに六年間が、もうあと半年で過ぎ去ってゆく。高校卒業の時、担当の先生より、今までのあまり例のない職業であること、また、とても大変な仕事であること等を教えていただいた。私の選んだ道は、まちがってはいなかったと自負している。学生兼バイトの二重の生活の中で得たものは、苦しい生活と、生きることの難しさ、大切さである。

旭川市に来て、私は色々な事を学び、体験しながら、人間としての幅が広がってゆくような思いがする。決して華やかな仕事ではない。全員が作業着となって、子供達と接し、決して遊離した生活、指導などは考えられない。子供達

と同じ状況で、同じかつこうをし、ねころんだり走ったり、とくくみあいをする中で、一人の内なる要求、欲求を見出そうと、子供達も指導している人も必死である。生きることの尊厳、素直さ、苦しさを、さまざまな思いを時々刻々と積み重ねていく毎日。こんな日々は、私にとっては、最高の人生の一ページである。

人間一生のうち何をしたか、何を思い出したか、何を残したかが、とても大切であるように思っている。年平均寿命が伸びている状況であるが、私の一生の中で、ある一部分にしかすぎない施設生活かもしれない。だけど何かを残したい。

子供達が可愛くて、可愛くて、しかたがない時がある。悪いことをして叱っても、泣いていても、すわっていても。言語障害があつて訴えることが下手な子供、全く喋らない子供など、何を言わんとしているのかと、なんとかわかってあげたくて悩む、苦しむ。それを見つめ、お互いに理解しあえた時の喜びは、たまたま。

と感じている。より多くの経験をさせてあげ、幸福であつた、と感じるか感じないかは、よくわからないけれど、幸福になつてほしいと願う。子供達が大好きだ。私のもっているものすべてを出しきって、これからは頑張つてゆきます。

私たちの近況

看護科三期生

桶谷光美
(旧姓・石井)

落葉が日と戯れるのを見て、小さな娘が「ハッパ、ハッパ」と喜んで追っかけている九月の夕暮れ。「もっ」ととせがむ手をひっぱって家に帰ると「オギャー」の声。かくて、こんなにも涼しくなつたと云うのに、私の鼻の頭はいつも汗をうかべている。一日中、子供達とメルヘン(?)の世界に漂っている自分と看護婦だと思えないこともないが、マスコミで医療関係のニュースにふれたりすると、学生時代の教本のある本箱の方へ目をやってみよう。試験に追われたいハードな日々のことや、旭川の土曜に咲いていたコスモスの花のことまで、今はもう懐かしい思い出になつてしまつたけれど、思いをめぐらしていると、何の抵抗もなく学生時代のGパン姿の私に、それ、そう、そんな錯覚にさえ陥りそうです。

先日、学院より皆様の近況を折込んだ原稿を依頼され、主婦業に専念している幸田口さん(旧姓新田さん)に心情をお願いしました。

告知板

- ①会費納入の件について
第一期生・第四期生の方で会費を納入されていない方は、同窓会事務局へ納入して下さい。会費は終身会費で一人二、〇〇〇円です。
- ②会員の方で改姓、住所変更をされた方は、事務局あるいは同窓会同期役員の方へ直ちにご連絡下さい。

た。すっかりお母さんが板についた彼女に比べ、私は家庭と仕事と中途半端な気がしないではない。忙しく家事と仕事に追われていくと、月日が矢のように飛んで行く。同立の苦しさ、楽しさを知っている友は「仕事と家庭の両立の難しさ」を吐くこともある。でも流れる汗を拭く間もなく急患の処置を施す時、胃痛がするほど神経を研ぎすまし、手術の器械出しをする時、我道に悔なしと心から思う。「と便りをくれました。

仕事に疲れて帰る家路、戸を開けると「カーカン」と我が子の出迎えに疲れも何処へやら、我が子との楽しい一時を過ごす。

病院に勤務して四年目、知識、技術、若年者の指導等、中間層の看護婦への要求は多岐あるが、こうした充実感は看護婦ならではのところ。

私達看護科第三期卒業生は毎年一回、定例の同窓会を行っている。今年も企画しつつある同窓会、又懐かしい話に花を咲かすことでしょう。

自分の人生を大切に

保育科五期生
竹井千恵

私自身の昨日までの日々を振り返り見る時、そこに確かに自分の足で、意志で歩いてきた道をみる事ができる気がする。その時、時期において、生きる姿勢、目的、希望に迷うところはあっても、生きようとし、前進しようとして来たことに何の変りもないことを認めることができる。時には退屈的な言葉のこともあった。しかし方法、結果はどうあれ、自分で選んで歩いてきた道だから、自分自身のすべてにおいて、責任をとらなければならぬ。

人の弱さの中には、他人に責任を負わせるという一面がある。つまり自分がこのように苦しむのは誰かがこうしたから、こうしろと言ったから……という具合の。つまり責任からの逃避である。しかし、それは違うと思っている。その人の指導によって、その方法を自分で選んで実行したのであれば、結果はどうあれ、自分の意志（自由意志）で動いたことに違いない。だから、他人に責任を持つていくのは、やはり間違っていると思うのである。

そう考えて生きている私自身、その弱さに負けそうになることもあるが、自分の生き方をかえることは、やはり心がとがめる。私自身は人間として、女性として、自慢できるところは数えるほどもないだろう。だからこそ、今日まで生きて来れたために、少し身についた事は大切にしたいと思う。そして何より「生きる」ということに、真つ正面から向かっていくと、いと願っている。世の中には、自

分だけでなく、他の人の命まで粗末にする人がいる。しかし、彼等には彼等の人生、生きる権利があったことを忘れてはならないのである……。最近の世情を見るにつけ、淋しく思うことが多い。自分の意志で、自分の足で、自分の道（人生）をしつかり歩み続け、生きる目的を持ち、そこをわなないようにしたい。

私の近況

保育科六期生
小郷雅子

卒業して七カ月が過ぎようとしています。私は相変わらず旭川療育園の寮にいて保育士として働いています。四月より三階の年少重度病棟に変わりました。子供達とのスキンシップが多くなり、両腕が逞しくなったようにも思われます。それと、前以上に口やかましくなりました。でも、まだまだ職場では半人前です。当直した時など、ちょこちょこ失敗があったりして……。この夏は療育園でのいろんな行事に参加でき、キャンプではじめて献立まで考えました。

四月には軽自動車を購入し、仕事がない時は度々、近辺を走りまわっています。ほとんど買物ですが……。まだ遠距離は乗ったことがありません。みなさんも、あれから免許をとられた方があると思います。お互い交通事故には気を付けましょうね。

旭川療育園職員寮十三号室
鳥取の森のお姫さま

暑い暑い今年の夏もいつの間にか過ぎ、澄渡った空に飛びかう赤トンボの群れ。また、心に鳴り響

く虫の音に、秋の深まりを感じる今日この頃です。皆さん、元気で頑張ってください。私、今日ばかりは「さ」をなんぞ飲みながらこうして書いています。静かな部屋には時計の音だけがカチ・カチ・カチ……。ふと、学生寮（はずか一年だけであったけれど）の生活を思い出して、ごきぶりと格闘したあの日、というより毎日、ごきぶりは鳴くのだらうかと真剣に考えたあの頃をなつかしく思います。今のうちに静かになれる時は、まずなかつたけれど、友だち（ごきぶりでないのです）の有難さを痛感します。ところで私は、療育園の保育の専任として子どもたちと共に学んでおるのですが、もう落ち着いたかなあ……と思つた時には春が過ぎ、夏も過ぎ、そして秋も深まろうとしていました。この春、希望を胸に学院を卒業した皆さんはどうでしょう。歩む道は違っても、一歩一歩確実に、目標に向かって頑張ります。暇な時には遊びに来て下さい。また、たよりも待っております。

中西 緑

職場にて

看護科六期生
房崎奈緒美

学院を卒業して、早六カ月にな

ろうとしています。あの日、それぞれの希望を胸に、別々の場所に就職したわけですが、皆さん、お元気ですか。頑張ってください。

私は現在、実習病棟である川崎病院の西六階で勤務いたしております（透析患者と眼科の患者を扱っている病棟）。街角の私には最初の三カ月間は大変な毎日でした。注射、浣腸、患者とのコミュニケーション……。どれひとつとして満足いく結果は得られず、何度か自己嫌悪に陥り、私にはこの仕事を続けていく資格があるのだろうかとも悩みました。下宿に帰ってからは涙を流したり、ため息をついたり、とにかく朝がくるのがとても恐ろしい毎日でした。しかし、病院に行けば辛いことの反面、先輩や同僚に励まされることも多く、今では毎日楽しく働いています。看護婦としての知識、技術はまだまだで、患者さんに迷惑をかけることも度々ですが、少しずつ自分のものにしていけたらと頑張っております。

後輩の皆さん、私が職場に出て一番辛かったことは、自分の勉強不足です。学生時代は良いこと、悪いこと、何かにつけて許されることばかりですが、いったん職場に出ると、許されないことばかりです。どうか皆さんは私のように後悔することなく、学生の立場を上手に利用して頑張ってください。それからもう一つ、個人生活には十分気をつけて下さい。職場に出て、健康ということの大切さを改めて感じました。残り少ない学生

同窓会役員

生活。目標は皆同じです。まず国家試験合格、私達の学院を守り立てていくのは皆の努力です。頑張ります。

保育科						看護科					
1期	野上 芳江	石原 啓子	平岡 文恵	難波喜久子	高橋 愛子	1期	堀内 綱江	田中 幸子	宮西久美子	近藤 洋子	山本 基子
2期	伊藤 充子	村木 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	2期	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美
3期	伊藤 充子	村木 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	3期	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美
4期	伊藤 充子	村木 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	4期	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美
5期	伊藤 充子	村木 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	5期	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美
6期	伊藤 充子	村木 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	伊藤 充子	6期	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美	藤谷 光美

編集後記

吹く風も秋の気配を感じさせる今日この頃、皆様にはお変わりございませんか。お伺い致します。この度、特設の「同窓会だより」を発行することができ、大変喜ばしい次第です。発行にあたっては、近況を伝えあうことを主眼とし、原稿をご依頼したところ、多くの方々の協力を得ることができ、大変うれしく思っています。尚、今後はこれを機会に発行したいと思っておりますが、同窓会総会においてご意見を聞かせて頂きたいと思っております。